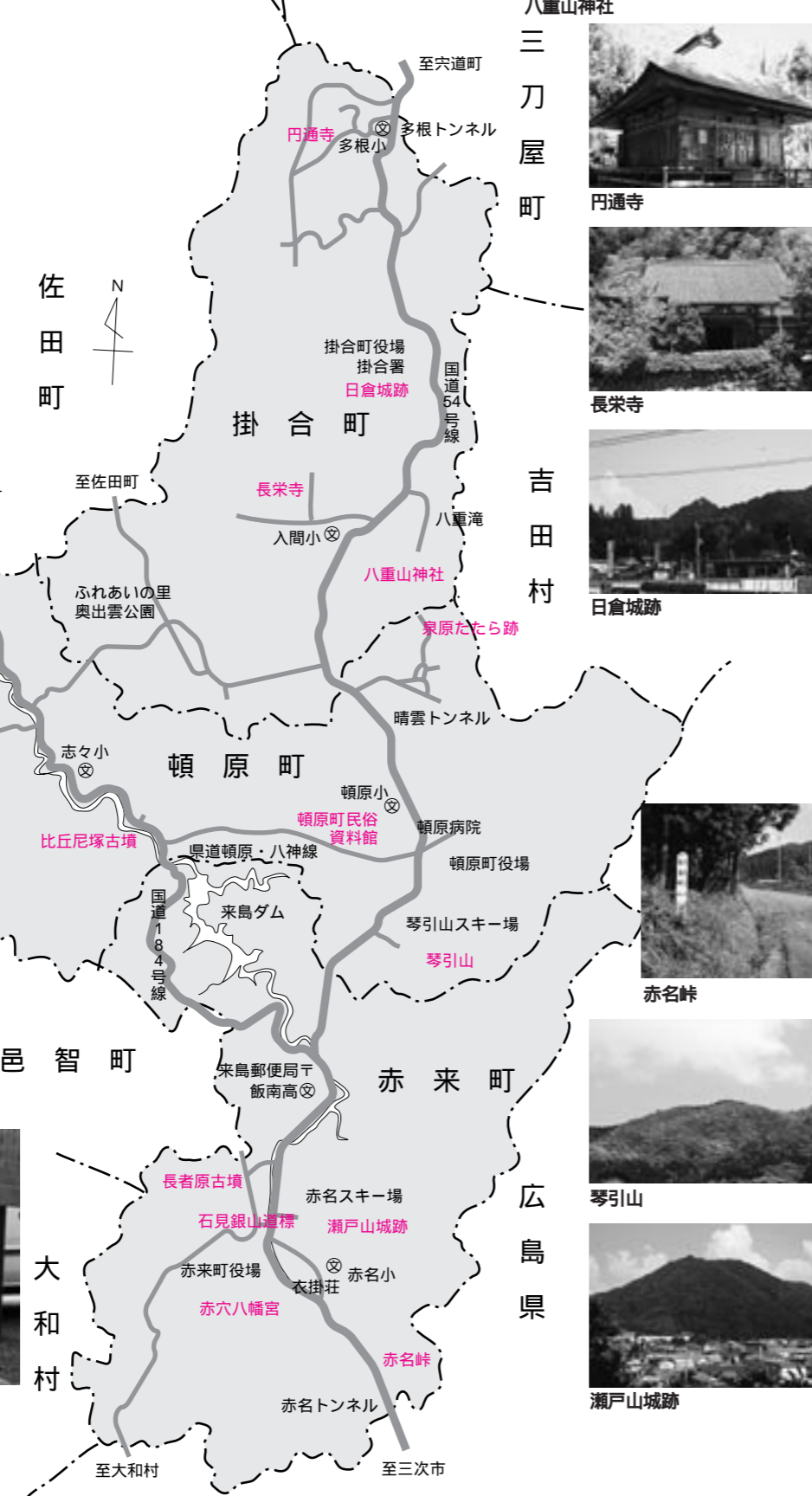
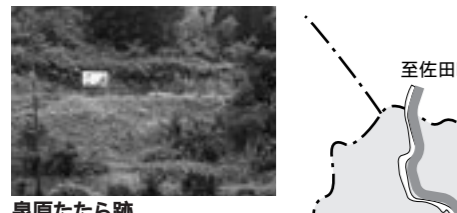
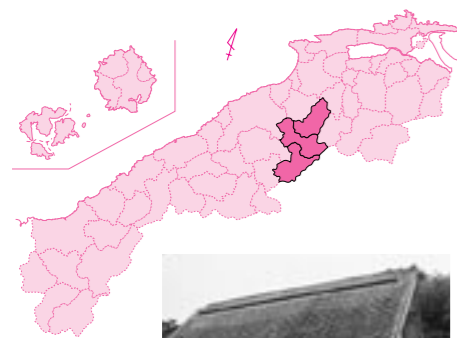


山陰・山陽のパイプ役

頓原町・掛合町・赤来町



神の宿る山は オールシズン楽しめる 琴引山

夏はキャンプに登山、冬はスキー。『出雲国風土記』にも載っている「神の山」は、オールシーズンで楽しめる。標高1014mの山頂には、大國命が琴を弾いて国を治めたと伝えられる琴弾山神社がある。ふもとのスキー場までは約1時間。山頂付近に突如見える巨岩の参道を抜けると、神社の本殿。頂上からは中国山地の山々、三瓶山がパノラマサイズで見渡せる。家族でのハイキングにおすすめ。
 <交通> 頓原町役場からバス10分
 佐見下車。山頂までは徒歩90分
 <連絡先> 0854-72-0311(頓原町観光協会)
 <いにしえ> 5巻P14

豪雪地ならではの スノ・ミュ・ジウム 頓原町民俗資料館

雪との厳しい戦いの中で民衆が生み出した雪具を中心に集めた、全国でも珍しいスノ・ミュ・ジウム。建物は高床式の造りで、200点あまりの展示物のうち、150点が国の文化財に指定されているからすごい。今では昔話の中でしか登場しない雪ぐつや、雪みのなどが所狭しと並んでいる。展示物がすぐそばで見られ、当時の雪国の生活の匂いまでしてきそうな臨場感がある。隣りにある教育委員会に言えばいつでも見せてもらえ、マンツ・マンの案内も期待できる。
 <交通> 頓原町役場から徒歩2分。
 <連絡先> 0854-72-0301(頓原町教育委員会)

かつてたたら炎が燃えた 泉原たたら跡

中国山地一帯で行われていた、たたら製鉄。国道54号線青雲トンネル北から旧道には歩いて車で10分。頓原町と吉田村の境界付近にある景山氏宅の裏にあるのが、泉原たたら跡

おたっきー情報

発電用として建設され、水を満々とたたえる来島ダム。このあたり一帯には遺跡があるらしく、冬場など水位が下がったときには縄文土器などの遺物が見つかる。

ここはたたら命とも言える地下構造がそのまま保存されている。田んぼの整備で見つかったものだが、その歴史的価値の高さから保存された文化財だ。小川のせせらぎと鳥の声を聞きながら、「たたら里」を実感できる。
 <交通> 頓原町役場から車15分

深流にある奥出雲の古墳 比丘尼塚古墳

頓原町八神 <指定> 町・史跡
 頓原の町から三瓶方面に県道326号線を車で走ること10分。八神地区の神戸川沿いにある、全長20mほどの古墳。かつては円形だったが、いまは土が流され形ははっきりしない。古墳は広い平野の真ん中や縁の小高い丘にあることが多いが、この古墳は山の谷間の小川の横にあるのが珍しい。
 <交通> 頓原町役場から車15分
 <いにしえ> 3巻P32

33年に1度の御開帳 円通寺

掛合町多根 山々を見おろし、雲海を見ることができるくらい眺めが良い山の上の寺。天台宗の古寺で、天平時代、奈良の東大寺建立で活躍した行基が立ち寄り、観音像を彫刻して安置したと言われる。しかしこの観音像は、残念ながら33年に1度しか見ることができない。近くには五輪塔群もある。休憩所も完備。
 <交通> 掛合町役場から車15分
 <連絡先> 0854-62-0168

これこそ欄間の傑作 長栄寺

掛合町入間 江戸時代の天才彫刻師・清水巖作の欄間を見られるお寺が、ここ長栄寺。清水巖作の作品は明治時代にフランス・ドイツでも紹介され、その芸術性の高さが評価されている。長栄寺を訪れば、いつでも静かな寺の本堂に上がり、精巧な欄間彫刻を見ることができる。近くには見事な木立桜や、県内でも最大級の山桜があり、春に訪ねるのがおすすめ。
 <交通> 掛合町役場からバス15分
 入間下車、徒歩5分
 <連絡先> 0854-62-1246

中世山城の面影を残す 日倉城跡

掛合町掛合 掛合町にある、中世山城の中でも代表的な山城。『出雲国風土記』の書かれた時代には、「日倉社」があったらしい。戦国時代には多賀山氏の拠点となり、小規模な城ではあるが、馬場や三の丸も配置されている。毛利元就が出雲侵攻の際、ここを拠点とした。ふもとの駐車場から600m歩けば、頂上に到着。
 <交通> 掛合町役場から徒歩20分

岩窟に神が住む 八重山神社

掛合町入間 八重滝の心地よい響きを聞きながら遊歩道の脇道を上ると、八重山神社の入口に着く。老樹に囲まれた参道を歩いていくと、突如切り立った岩壁が見える。その岩壁の中ほど、頭上に岩肌が迫ってくる岩壁に建てられているのが八重山神社。滝と森と自然がマッチした神社だ。
 <交通> 掛合町役場からバス10分
 八重滝下車、徒歩20分

山陰山陽のパイプ役 赤名峠

赤来町上赤名 山陰と山陽の交通の要として、古代から活躍した峠。古くは、石見国庁の役人として赴任した柿本人麻呂が、この峠を越えたという。石見銀山の銀運搬の難所としても知られ、1964年に現在の赤名トンネルが開通するまで、まさに命の綱の峠であった。現在では古い峠を越えることはできないが、峠近くまで行くと昔ながらの峠の薫りが漂ってくる。
 <交通> 赤来町役場からバス10分
 陣屋下車、徒歩15分

戦国の世の激戦の跡 瀬戸山城跡

赤来町赤名 赤名の町の東側にそびえる衣掛山が、赤穴氏の居城・瀬戸山城跡だ。戦国時代には尼子氏の一門として毛利・大内とすさまじい戦いを繰り広げたといわれる城跡である。赤名小学校裏から細い山道を登れば20分で頂上の本丸跡、二の丸跡に着く。現在も残っている石垣と石段、さらには大手道も見る事ができる。今にも戦国武将と出合いそうな山城だ。
 <交通> 赤来町役場から徒歩30分

銀山街道のあかし 石見銀山道標

赤来町赤名 石見銀山の銀輸送路が赤名の町中に、今も残っている。赤名と近隣の町は、「助郷」(運搬の仕事をつとめる村として、多くの農民が狩り出された。その負担の大きさは、はかりしれないものがあったという。その銀輸送のあかしである道標が、通称「下市三叉路」と呼ばれる町中にひっそり立っている。国道54号線とは対照的な赤名の旧道からは、銀輸送の跡がしのばれる。
 <交通> 赤来町役場から徒歩1分

奥出雲の代表選手 長者原古墳

赤来町下赤名 <指定> 町・史跡
 赤来の平野部を見おろす丘陵地にある古墳。1辺20m、高さ3mの方墳で、奥出雲地方では大きい古墳だ。近くには、この古墳と関係が深いと考えられる円墳がある。造られた時期は7世紀ごろ。県道邑智・赤来線の沿線にあり、木や草も刈られ古墳の形がよくわかるので立ち寄り見よう。
 <交通> 赤来町役場から車5分
 <いにしえ> 3巻P31

唐美人の神像がほほえむ 赤穴八幡宮

赤来町上赤名 <指定> 国重文・彫刻(三神坐像) 県・無形民俗文化財 奥飯石神楽
 赤名の町西側のこんもりした林に建つ。社宝の三神像は重要文化財で、3体とも鎌倉期の写実的作品。女神像2体は、中国風衣装の唐美人風。男神像からは2枚の木札が出てきたので、制作年代が判明している。海外でも高い評価を受けており、東京国立博物館はもちろん、海外の博物館で展示されたこともある。ふだんは神社横の社宝庫で保管され、宮司の倉橋さんに連絡しておけば快く見学させてもらえる。ただし雨の日は不可。毎年11月3日の夕方には、無形民俗文化財に指定されている「奥飯石神楽」が見られる。境内にはおもろい木もあり、見所の多い神社だ。
 <交通> 赤来町役場から徒歩5分
 <連絡先> 0854-76-2138